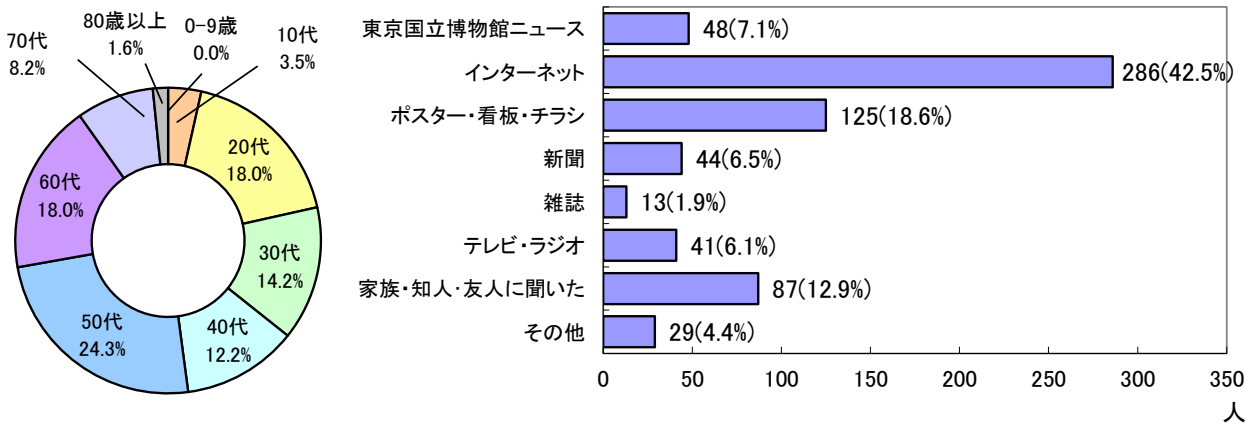


開創1150年記念 特別展「旧嵯峨御所 大覚寺—百花繚乱 御所ゆかりの絵画—」

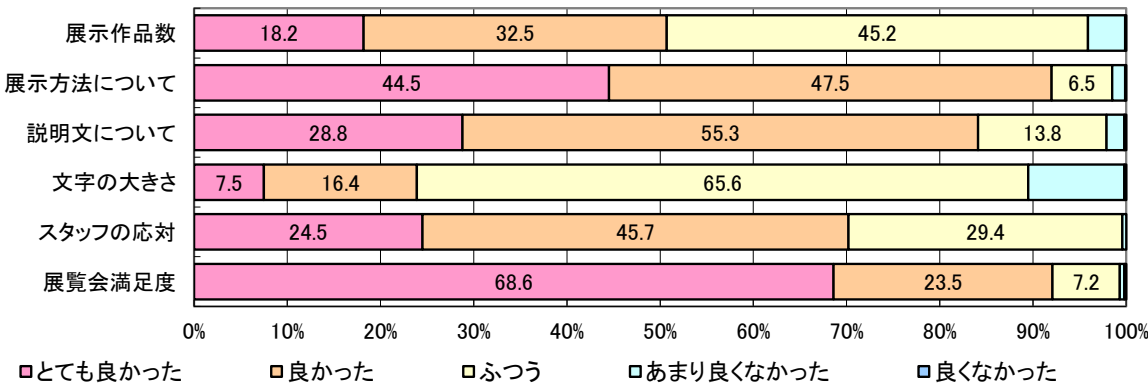
アンケート集計結果

令和7年1月15日（水）～3月16日（日）（49日間）
総入館者数：190,754人
回答者数：574人

①アンケート回答年齢層 ②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・障壁画の部屋が臨場感があり圧巻だった。イスに座って眺められたのも良かった。
- ・スペースに余裕がありゆったり見ることができた。
- ・仏像、刀剣、障壁画のいずれも配置や照明などが見やすかった。
- ・御冠の間の再現がよかった。
- ・音声ガイドもとてもよかった。
- ・会場内の写真撮影ルールがわかり難かった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品数	4.0	0.1
展示方法	1.4	0.1
説明文	1.9	0.2
文字サイズ	10.3	0.2
スタッフの対応	0.4	0.0
展覧会の満足度	0.5	0.2

(%)

本展は、京都嵯峨の大覚寺が開創1150年を迎えるのに先立ち、優れた寺宝の数々を東京国立博物館で一挙にご紹介する特別展です。
障壁画や五大明王像など非常に貴重な作品が出展し、また仏像や刀剣に関しては普段は見られない方向からの観覧も可能だったため、多くの方から印象に残ったとのご感想をいただきました。
加えて、特に牡丹図、野兔図をはじめとした障壁画については、第4章での展示室の壁面・空間全体を使った展示方法により、臨場感を味わいつつ各作品をゆったり、じっくりと観覧できたことで、作品の持つ美しさがより伝わったと思われます。
また、「御冠の間」再現についても「わかりやすく良かった」とのご感想があったほか、音声ガイドも聞き取りやすく観覧のよい助けとなったようです。
アンケート実施当日も多数の来館者が来場されましたが、第4章をはじめ混雑を感じにくい会場設計の工夫もあって、全体的な満足感に繋がり、本展全体として92%の方から「とても良かった」「良かった」と大変高い評価をいただきました。
一方で、「解説については仏像や背景知識の補足的な内容があるとより良い」というご意見や、写真撮影ルールに対するご意見もいただきました。
この度のアンケート結果も参考に、引き続きよりよい観覧環境・来館者サービスの提供に努めてまいります。